

セッションレポート

第一話

<あらすじ>

ライブの警備のため、竜王島に向かったフィル。しかし、そこに現れたのは、ラーフの者ではない奈落獣と1隻の戦艦だった。海の利を生かし、時には地形を捻じ曲げながら襲い来る奈落獣ナントモナイゼに苦戦するも、地球の歩行戦車に似たガーディアンの助けもあってトドメを刺す。そのガーディアンから現れたのは、遠い星から地球に逃れてきた姫君。彼女は言う。「第五帝国ガリスディアが地球を侵略している」と。

<感想>

キャンペーン全体の導入と記念すべき初戦。水地のペナルティはきつかった。なんだよダメージ半減って。地形効果を活かした戦闘はあまりなかったのでもいい機会になった。とはいえトゥーレ製ガーディアンでは疾駆にもなれないのであまり対策のしようがないのだが。

全体的に正義感の高い感じのキャラクターで行きますが、周りのキャラクターがキャラクターなので埋もれないようにどんどん突っ込んでいきたいところですね。

<マテリアル：1>

フィルダーク・シュレニア 愛称：フィル

イズモ人の母とトゥーレ人の父とのハーフ。現在高校三年生。

イズモ留学中にトゥーレとラーフの戦争が始まり、トゥーレに加勢するためにフォーチュンのリンケージとなる。はじめはトゥーレを第一に考えていたが、イズモでの戦いを経験するたびにトゥーレだけでなく、あまねく人々を守らなくてはいけないと考えるようになる。現在は学生生活とフォーチュンでせわしなく活動している。

リンケージ能力としては、先天的な性能が高い。意識を機体の制御に集中することにより、機体の性能を通常の2～3倍に引き上げることができる。一方で一時的に心拍数を増大させるため、尋常ではない身体負荷がかかる。そのため、日ごろから筋トレなどの鍛錬は欠かせない。

機体：ブラフマー

フォーチュンで作られたトゥーレ・ライトニングの新型機。これのほかにヴィッシュヌ、シヴァの2機が建造されているが、ガリスディアの襲撃によってブラフマーだけが急遽ロールアウトされている。追加オプションによってさまざまなバリエーションを生み出すことができる。中でもラディエーションブレイカーカスタムは右腕部がカギ爪のような構造になっており、そこから高周波振動を送り機体を爆散させる。（つまりはレンジでチン！）また、高周波振動を壁のように作って衝撃を和らげることも可能。これにより、近～中距離での敵の殲滅を狙う。ところで、ルミナスでなぜブラフマー用の換装パーツがあったのか、（一説にはとある科学者の趣味だともいわれているが）、詳細は定かではない。

第二話

<あらすじ>

亡国の姫君、音戸ツルギは語る。第五帝国ガリスディア、地球全土を侵略する新たなる敵だ。フォーチュン旗艦グランカatedralは、密かに侵略に備えていた組織ルミナスとともに彼らの本拠地であるイズモに向かう。そんな折、突然襲い来る奈落獣のプレッシャーにより、艦が航行不能に陥ってしまう。フィルたちは原因を突き止め、無事に元凶である奈落獣フミコミガタリンを撃破する。だが、地球連邦軍の一部隊、アーディティアに有無を言わず接收されてしまうのだった。

<感想>

ラディエーションブレイカーを引っ提げて登場。やはりカバーリングには勝てなかったよ…。このパーティ、意外と範囲攻撃は充実しているみたいだ。

次回からは勲章追加。スーパースキルを活かせるかな？

あと他のPCたちといっぱい話せるように頑張ります。

<マテリアル：2>

フィルの二つの故郷、イズモとトゥーレ。どちらも彼にとっては大事なものであり、戦う意味である。

トゥーレはフィルの生まれた場所である。ラーフ帝国との戦争に敗れ、現在はレジスタンスとして反撃の機会をうかがっている状況。長期休みとなれば、物資を送るためにフォーチュンに同行してトゥーレに向かっている。父親はトゥーレの将軍であり、トゥーレに戻るたびにかわいがられている。子ども扱いと酒癖の悪さには正直うんざりしているものの、トゥーレから見守る父の存在は心の支えとなっている。

イズモはフィルが小学生のころから移り住んだ場所。なんでもイズモの教育水準は高いからと、父親の反対を押し切って母親と一緒に移り住んだ（父はトゥーレに残った）。その後、トゥーレとラーフの戦争が始まり、トゥーレに帰れない状況になる。イズモを狙うテロリストは許せないし、奈落獣から人々を守りたい。その思いがフィルをリンケージとして突き動かす原動力になっている。